

「何度も乗りたくなる」— 東武鉄道SPACIA Xがめざした、リピートしたくなるデザイン

株式会社日立製作所 研究開発グループ UXデザイン部 主任デザイナー 高田裕一郎

はじめに

鉄道車両のデザインは、その外観や内装の美しさだけでなく、乗車する人々の体験や感情に深く関わっています。東武鉄道の新型特急「SPACIA X（スペースアックス）」【図1】は、そのような多彩なデザインの取り組みを通じて、「何度も乗りたくなる」車両を実現しました。その核にあるのは、「ユーザーエクスペリエンス（UX）」の追求です。本稿では、車両デザインがどのようにして乗客の体験を豊かにし、また乗車したいという気持ちを喚起するのか、そのポイントを詳しく考察します。

「SPACIA X」の概要と開発背景

2023年7月にデビューした「SPACIA X」は、浅草と日光・鬼怒川エリアを結ぶ東武鉄道のフラッグ

シップ特急です。従来の「スペースア」の後継車両として登場し、車内における利便性と快適性、さらに最新省エネ機器搭載による環境性能を兼ね備えた車両となっています。

デザインコンセプトは、「Connect & Updatable」。長く愛され続ける車両となるよう、様々な情報やサービスでお客様の心と「つながり」、何度も乗車したくなるような「日々進化し続ける」車両デザインをめざしています。

開発にあたっては、伝統的な江戸文化と現代的なデザイン、そして最新技術を融合させ、利用者が「何度も乗りたくなる」魅力を生み出すことを最優先に車両デザインの検討を進めました。伝統工芸とモダンデザインが調和し、新たな価値観や多彩な体験を提供する戦略が、車両デザインの核となっています。

●図1 SPACIA X（スペースアックス）

